最上の山口さん提案、山形の設計事務所が無償協力

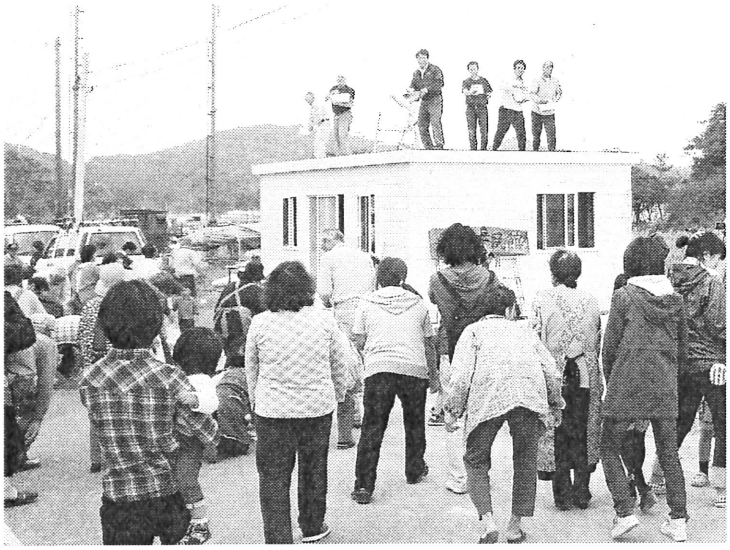
被災地に集会場贈る

資金支援は東京の食品会社

復興を話し合う場に

東日本大震災から7カ月が過ぎ、大津波で集落の大半が失われた宮城県東松島市宮戸島の月浜地区に仮設集会場が寄贈された。復興に向け、住民交流の場としての活用が期待されている。

宮城・東松島市の月浜地区



仮設集会場寄贈で、屋根からまかれる餅を受け取る住民　＝宮城県東松島市月浜地区

漁業やのり養殖が盛んな同地区は浜辺に民家や民宿が並んでいたが、大津波で壊滅状態に。避難所生活は終わったが、10月時点で住民の7割近い約120人が仮設住宅に暮らしたままで、復興に向けたコミュニティーの維持・再生が課題。話し合いができる集会場が近くに必要だった。

仮設住宅暮らしの60代男性は「今まではテントでよかったが、寒くなると屋外では厳しい状況だ」と話す。こうした中、仮設住宅に隣接する木造集会場（約70平方メートル）が完成。壁には津波で流され、その後発見された「月浜公民館」の看板が掛けられた。

寄贈式のあった10月8日、集会場前の広場には住民の大半が集まって宴会が開かれ、避難生活のつらさを一時忘れて楽しい時を過ごした。「こんなにぎやかなのは（震災後）初めて。元気が出た」と、70代女性はうれしそうに語った。

集会場建設を提案したのは、同地区への復興ボランティアツアーを企画してきた旅行代理店「トラベル東北」（最上町）の山口ステイーブ社長。震災後、海岸の清掃や養殖用いかだ製作に取り組む活動の中で「復興に向け住民が集まって話し合う場が必要だ」と気付いたという。

山形市内の設計事務所の無償協力を得て、十分な耐久性を持つ組み立て式の建物を開発。社員がボランティアに参加した食品メーカー「ハインツ日本」（東京都台東区）の資金支援を得て、寄贈を実現させた。

同地区などで活動する国際協力機構（JICA）地域復興推進員の福原佳代子さんは「住民の孤立を防ぐためにコミュニティー再構築はとても重要。地域復興の足掛かりとしても必要だ」と話した。

世界最古のジーンズです

カウボーイ愛用

世界最古とされるジーンズが、日本で初めて公開された＝写真。1879年に作られた「リーバイス」で、現在、約1200万円の値段が付く超お宝。厳重な警備の中、東京・渋谷の店舗に4日間だけ展示された。

最古のジーンズは、米国の古着商・ストラウーが2000ったった後、米国されている。

以前の所所などは分が、リーバ社で歴史資リン・ダウ

養殖ブリが宮崎、高知、愛媛方面から届いている（24日現在）

いるのでは？　せっかく手に

あいますね。今年にやらなかったけれど、やってみたいことを書き出してみましょう。

書いた紙は家計簿の夏の部分に貼っておくと、来年見返すことができます。夏物の衣類の箱に入れたり、扇風機に付けておくのもいいかもしれませんね。

献立のヒン

キ